

『糖尿病腎症の治療戦略  
 ～特にARBの臨床的意義について～』

RA系抑制は、降圧とともに臓器保護作用が得られると期待されており、実際、JSH2009でもARBは第一選択薬に推奨されている。この講演ではARBの臨床的意義について、昨年発表された2型糖尿病患者のエビデンスを中心に概説する。



第53回日本糖尿病学会年次学術集会  
 ランチョンセミナー2

日時 2010年5月27日(木)  
 12:30～13:20

会場 第3会場 ホテルグランヴィア岡山 3F クリスタル  
 岡山県岡山市北区駅元町1-5

**糖尿病腎症の  
 治療戦略**

～特にARBの臨床的意義について～

座長 **榎野 博史** 先生  
 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
 腎・免疫・内分泌代謝内科学 教授

演者 **片山 茂裕** 先生  
 埼玉医科大学病院 病院長  
 埼玉医科大学 内分泌・糖尿病内科 教授

共催：第53回日本糖尿病学会年次学術集会/第一三共株式会社